

成果 陸上トレ 足大付勢躍進

全国高校スキー3人入賞

女子回転で初優勝を飾った足大付の大西
(中央) 〓 赤倉温泉スキー場



強豪と夏合宿／専門的知見

山形県内を舞台に熱戦が展開された第72回全国高校スキー大会(インターハイ)は11日、5日間の日程を終え閉幕した。同県最上町の赤倉温泉スキー場で行われたアルペンでは、県勢初の優勝となった大西美琴(足利大付)を筆頭に3人が入賞。躍動した県勢の活躍を振り返り、その要因を探る。

(小玉義敬)

入賞は女子回転での大西のほか、男子大回転と回転とともに5位に入った横尾隼(同)と同回転8位の深澤高晴(同)。足利大付の源田道昭監督は「それぞれ条件が違

う中で、一人一人が力を発揮してくれた」と奮闘を評価した。

中学時代からその世代

全日本拠点強化選手に選ばれている2年生の横尾もさすがの活躍だった。回転は1回目で75番

手スタートと不利な条件の中で19位に食い込み、2回目は全体3位の好タイムで順位を上げた。3年生の深澤は苦しい回転で安定した滑りを2回そうえ、昨年の大回転8位に続く2年連続での入賞となった。

相次いで入賞を果たした足利大付勢躍進の原動力となったのが、夏の陸上トレーニングだ。昨夏は、今大会でも優勝者を出した小樽双葉北海道などの合宿を実施。強豪校と共に徹底的に体をいじめ抜いた経験は「大きな自信になった」と源田監督は美感を込める。加えて、本年度からは

日体大スキー部OBの上野航大コーチがチームに加入。より専門的な知見でウエイトや細かなフォーム改造などにも取り組んできた。

同校の夏場のトレーニングはもとより厳しいことで知られ、大西は「かなりきつかったけど頑張ってたよ」と、実力の近い選手たちが切磋琢磨すること生まれた高い競争意識が「層の厚さにつながった」と源田監督は分析した。今回出場した7人のうち5人が、2年生の足利大付勢。今後のさらなる成長が期待される。